

読書のすゝめ

その29

H 30 12 / 14

今年の漢字は「災」

12月12日は「漢字の日」

日本漢字能力検定協会が、清水寺（京都）で2018年の世相を表す一字を発表しました。「漢字」の素晴らしさを伝える啓発活動として1995年からスタートしたもので、今年も11月1日から12月5日までの募集により決定しました。これまで「戦」「帰」「愛」「命」「偽」「税」「金」「北」などが選ばれてきましたが、イラクで日本人が殺害され、新潟県中越地震のあった2004年も「災」の漢字でした。平成最後の一字に複雑な思いを持つ人も多いかと思えます。みなさんにとって今年の一字は何でしょうか？来る年が「健やか」「和やか」で心「穏やか」な「明るい」一年となることを願います。



さて、2年次生が沖縄修学旅行に出かけ、茨城に戻れば、すぐに冬休みです。年末年始で何かと気ぜわしいときですが、17日間の休みを有効に（読書に）使ってください。図書館も冬休みをいただきます。

開館日は25日と28日と、1月7日の5日間だけになりますので、早めに本を借りてくださいね。

新着図書から



『**あなただけの人生をどう生きるか**』 渡辺和子
筆者は小学校3年（9歳）のときに二・二六事件で父渡辺錠太郎が青年将校に狙撃され命を落とすところを、わずか1メートルの至近距離で目の当たりにしている。修道女となり、晩年ノートルダム清心女子大学の名誉学長、及びノートルダム清心学園の理事長を務め多くの本を出版しているが、『**置かれた場所で咲きなさい**』は200万部をこえるベストセラーになっている。2016年に89歳で亡くなったが、本作は生きるとはどういうことか、学生たちに体当たりで語った珠玉のメッセージ集となっている。



『**昨日がなければ明日もない**』 宮部みゆき
杉村三郎を主人公とするシリーズ第5作目。シリーズものではあっても、どの作品から読み始めても面白い。本作が気に入ったなら、ぜひ1作目から「事情」を知っていた方がいい。日常のちょっとした心の隙、俗に魔がさしたことで起こるできごとによる悲劇。ほろ苦く、痛みとともに「人生」を感じることに間違いなし。今回は『ちよつと困った女たち』が起こした3つの事件。自分中心に世の中を過ごし、失敗を他に押しつけて逃げる女。「あるある」「いるいる」であり、いや、自分は大丈夫？と考えるしまう。



『**ブロードキャスト**』 湊かなえ
町田圭祐は中学時代、陸上部に所属し、駅伝で全国大会を目指していたが、3年生の最後の県大会、わずかの差で出場を逃してしまふ。その後、陸上の強豪校、青海学院高校に入学した圭祐だったが、ある理由から陸上部に入部することを諦め、同じ中学出身の正也から誘われてなんとなく放送部に入部することに……。この作者がこんなさわやかな青春小説を書くとは！と驚きの一冊。

そろそろ直木賞・芥川賞候補作が発表されます。どの本がノミネートされるか楽しみですよ。

